

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教職実践演習（幼稚園教諭二種）（卒業研究） Practical Seminar for Teaching Profession		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	演習	選択	(保育士養成課程必修・教職課程 (幼稚園二種) 必修)	こどもフィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
保育士養成課程科目・教職課程（幼稚園教諭二種）科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士養成課程科目・教職課程（幼稚園教諭二種）科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
(主) 秋山真奈美・大塚登・久保田隆範・田村田・松崎勇人	授業中に紹介しま す	授業中に紹介します		授業中に指示します
授業の概要				
ポートフォリオ（学習の履歴・実習記録・実習評価表等）に基づく反省と考察の上に立って、①学習指導力（子どものレディネス理解力、授業設計力等）、②幼児指導力（子どもの発達理解力、学級での生活指導力等）、③調整力（園・家庭・地域社会および関係諸機関との連携・協力調整）、④学級経営力（行事運営力を含む）の4つの事項を主たる授業内容とし、教職の理解とその実践力の習得を図る。				
授業の目標				
①誠実、公平に幼児に接し、幼児とともに学び、成長しようとする態度を身につけることができるようにする。 ②幼児教育現場における社会人としての望ましい態度を習得することができるようにする。 ③幼児の発達や心身の状態に応じた、生きる力を育む学級経営の基礎を習得することができるようにする。 ④幼児教育・保育の目的、内容、方法についての基本的事項を確認し、学習指導並びに生活支援に生かすことができるようにする。				
授業の方法				
講義、講演、模擬授業、実技指導、ディスカッション、事例研究、フィールドワーク等を取り入れたアクティヴ・ラーニングベースの授業形態により、総合的な教育実践力の習得を図る。				
学習の成果（学習成果）				
(1)教育・保育に対する健全な使命感、責任感、教育的愛情を以て“支えあい、学び合う共同体”を形成することができる。 (2)設定した課題に対し、他者と協力関係を築きながら対処することができる。 (3)幼児の特性や発達過程を十分に理解し、幼児への総合的な指導、保護者への助言、学級経営、集団指導等に応用・統合し、「生きる力」の基礎を育むことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ポートフォリオとアクティヴ・ラーニングの重要性 実践の中から考えるとは（松崎、秋山、大塚、久保田、田村）			
第2回目	ガイダンス・概要説明：履修カルテの書き方、実践研究の進め方、レポートのテーマ及び提出期限等の説明（秋山、大塚）			
第3回目	研究発表、模擬保育の企画と活動について（秋山、大塚、久保田、田村）			
第4回目	外部講師による講演：現代社会の教育諸問題と教職の課題（佐野日本大学中等教育学校長）＊レポート提出（秋山、久保田）			
第5回目	外部講師による講演：指導計画、学級経営案の作成について（認定こども園長）＊レポート提出（久保田、田村）			
第6回目	外部講師による講演：児童生徒理解について＊レポート提出（大塚、田村）			

第7回目	幼児に対する理解を踏まえた教育実践指導と評価活動 *レポート提出 (秋山)	
第8回目	家庭・地域・専門機関との連携 *レポート提出 (大塚)	
第9回目	遊びを通じた実践的発達支援 *レポート提出 (久保田)	
第10回目	幼児教育現場における造形表現指導について *レポート提出 (田村)	
第11回目	総合的指導の立場からの模擬保育・実践研究に向けた教材研究・資料作成 (秋山、大塚、久保田、田村)	
第12回目	課題設定研究発表・模擬保育Ⅰ・・・実演指導【まとめ】 内容デザイン力等。(秋山、大塚、久保田、田村)	学習指導力の確認、幼児の総合理解力、保育内
第13回目	課題設定研究発表・模擬保育Ⅱ・・・実演指導【まとめ】 内容デザイン力等。(秋山、大塚、久保田、田村)	学習指導力の確認、幼児の総合理解力、保育内
第14回目	課題設定研究発表・模擬保育Ⅲ・・・実演指導【まとめ】 内容デザイン力等。(秋山、大塚、久保田、田村)	学習指導力の確認、幼児の総合理解力、保育内
第15回目	課題設定研究発表・模擬保育Ⅳ・・・実演指導【まとめ】 内容デザイン力等。(秋山、大塚、久保田、田村)	学習指導力の確認、幼児の総合理解力、保育内
事前・事後学習	研究発表に向け、シラバスを参照しながら平行して調査研究、及び資料・教材の準備を持続すること。事後学習として、ほぼ毎回レポートを課すので、全て提出すること。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	授業で使用する資料・教材の準備に勤しみ、ディスカッション場面では他者の意見を尊重しつつ自分の考えを述べ、模擬保育や研究発表聴講の際には的確な質問ができることが望ましい。
レポート	40%	それぞれの課題(履修カルテを含む)の要件を満たし、保育者としての視点から、実践を意識した記述がなされていることが期待される。
調査報告書	20%	模擬保育や研究発表の実行後、教員や学友から受けた助言を参考にして、研究概要を提出する。参考資料には電子媒体だけでなく、必ず書籍を1冊以上含むこと。多角的な考察が期待される。
小テスト		
試験		
発表内容(態度含む)	20%	明確かつ有益なテーマを設定し、それに見合う適切な資料を用意・配布すること。聴講者にわかりやすい、構成と発話が意識されていること。十分に準備し、教員・学友からの質問にも的確に答えてもらいたい。
その他		
教科書と参考図書		
教科書としては既購入の「幼稚園教育要領」(文部科学省)、「保育所保育指針」(厚生労働省)、「幼稚園教育要領解説書」(文部科学省)、「保育所保育指針解説書」(厚生労働省)、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を用いる。その他、各教員からの指定参考書は、ガイダンスおよび講話内で紹介する。		
履修上の留意点・ルール		
保育者を目指す者として、目的意識・課題意識を明確にして授業に臨むこと。従って、私語・居眠り・授業に無関係の行動・不参加は「授業参加態度」において減点の対象とする。私語を慎み、真剣に受講すること。		